

経済建設委員会会議録

平成24年6月4日 9時57分 開会
11時09分 閉会

網走市議会

午前9時57分 開会

○佐々木委員長

これより経済建設委員会を開会いたします。

本日の委員会の進行ですが、観光部より、平成23年度観光客入込・宿泊施設利用状況についてとHACの経営についての説明、また、東日本大震災関連観光振興特別対策事業の結果についての報告を受けます。

その後、休憩を挟みまして、行政視察の取りまとめを御協議いただきます。

では、平成23年度観光客入込・宿泊施設利用状況について説明をお願いいたします。

○田口観光課長

それでは、平成23年度観光客入込・宿泊施設利用状況について御報告します。

資料1号をごらんください。

平成23年度の観光客入り込み数は127万3,200人で、前年比4.7%の減少であり、宿泊数は34万3,900人で前年比3.3%の減少となっております。

観光客入り込み数は、東日本大震災の影響による道央圏を中心とした中学校の修学旅行の振りかえ効果や冬期間における流氷観光の長期化に伴い入り込み増がありました。通年では東日本大震災の影響による旅行控えや航空機材の小型化による国内観光客が大きく減少し、昨年を下回る結果となりました。

宿泊数については、上期においてはスポーツ合宿の受け入れチームの増加や延べ宿泊数の増加などもありましたが、原発事故の風評被害による外国人観光客及び道外観光客の宿泊減に伴い、昨年を下回る結果となりました。

10月から3月にかけての下期におきましては、震災対応事業として取り組んだ宿泊クーポン事業や流氷観光の長期化によって、入り込み数及び宿泊数とも昨年同期を上回りましたが、上期におけるマイナス要因による影響が大きく、挽回するまでには至りませんでした。

観光施設につきましても、厳しい状況となっております。オホーツク流氷館は11万100人と過去最低の入り込みとなり、そして、博物館網走監獄においても、昭和62年度以降最低の18万7,700人の見込みとなっております。

一方、流氷観光砕氷船おーろらにつきましましては、流氷滞在期間の長期化により、対前年度109.8%、9万3,984人と好調でした。

外国人観光客の宿泊数は、上期は震災による風評被害により低迷しましたが、下期は回復の兆しを見せ、中でも、台湾からの観光客の宿泊数が大きく伸びる結果となっております。

以上でございます。

○佐々木委員長

ありがとうございます。

皆さんから何か質問ございましたら、よろしいでしょうか。

(「なし」の声あり)

○佐々木委員長

では、観光客入り込みについての説明については終わらせていただきます。

次に、HACの経営についての説明をお願いいたします。

○田口観光課長

それでは、次に資料2号、株式会社北海道エアシステム、HACの経営について説明させていただきます。

HACは、昨年6月に奥尻空港上空での異常降下という重大インシデント以降、機材のトラブルなどが頻発したことから、欠航が相次ぎ、乗客の信頼性を欠き、経営不振に陥っています。

こうした中、HACの筆頭株主であります北海道は、HACへの貸付金償還を一部猶予するとともに、HACの経営改善をまとめるに当たり、第三者機関に事業評価を委託しまして、今回、その第三者機関から報告書が示されたところです。

その報告書の中では、HACの現在の窮状構造について3点が示されており、1点目は、少ない機材で運行していることから、その代替体制がないことから、機材が欠航すると他の便や他の路線に影響を与え一層欠航がふえるということが指摘されています。

2点目は、女満別空港におけるJAL、ANA便の増便により、路線競合による競争力の劣後が挙げられ、3点目としましては、離島路線が慢性的赤字構造となっていることが指摘されています。

また、経営改善策として、現行のHACの運行計画の条件を修正したシミュレーションをケース0とし、そのほか、女満別線の減便や撤退をシミュレーションしたケース、これに加えて、基幹路線の増便や新たな航路の追加などを加味した五つのケースが示されたところです。

次に、北海道の対応についてであります。北海道では監査法人の報告を受けて以降、これまで4回にわたるHAC経営検討委員会を開催するとともに、当市を含めた関係市町村への状況説明を行っておりますが、HACの今後の路線運行にかかわる具体的な道の方針については示されていない状況となっております。

最後に、本件に関する当市の意見としましては、1点目は、HACの事業存廃は北海道が主体的に判断すること、2点目は、北海道の方向性が示されない状況では、当市としてはコメントがしにくい状況であり、道から示された内容で判断したいと考えています。

3点目としましては、女満別線の路線廃止、撤退ということが前提だとすると、市が昨年出資してきた経過とは話が異なりまして、そのときの経過や公共性を考慮しますと、路線は存続されるべきであると。

そして4点目ですが、利用者の減少はJALとの路線競合が原因ではなく、重大インシデント等、安定的な運行ができず、信頼を失ったことが原因であること、そして最後に5点目ですが、HACの路線案については、女満別空港関係自治体2市2町の統一した見解の必要性を検討しています。

以上、5点を述べさせていただきます。

以上、HACの経営について説明を終了させていただきます。

○佐々木委員長

皆さんから意見等ございましたら。

○平賀委員

今、HACの経営の状況と、それから市の認識について説明していただいたところであります。

市としてコメントしにくいというふうに3番の2点目に書いているのですけれども、その次に、現状事実上のコメントに当たるのかというのが書いてあるのだというふうに見受けられるのですけれども、現時点でコメントするとすれば、基本的な考え方はこれだというふうに思うのですが、そこを確認させていただいてよろしいですか。

○田口観光課長

現状、北海道から方向性が示されていないので、路線についてどうあるこうあるということは言いにくいのですけれども、昨年出資した経緯から考えますと、存続はあるべきものと考えており

ます。

○平賀委員

基本的にその姿勢を持って、これから、一番最後のところに書いてあるのですけれども、2市2町で協議もしていくと思いますが、その辺、見通しを、北見市は市長がはっきりコメントを出していましたが、ほかの市町の考え方を含めて、今の現状でどのように押さえていращやるのか確認させていただきたいと思います。

○大澤副市長

この件については、新聞の報道が先行したというのが実態でありまして、まず、そのことを私どもは、5月21日に北海道の局長が説明に来られたときに、まず指摘をさせていただきました。

新聞も連日のように報道されていまして、その論調もいろいろ変わったりもしているのです。したがって、北海道としての方向性というのが、まず見えないということがありますし、先ほど言ったように、新聞が先行する中で、網走市はどう考えていますかと言われても、なかなかコメントしづらいということを申し上げました。

それと、北見、それから大空、美幌との関係ですけれども、このことが新聞に出された以降、副市長、副町長レベルで一度会いまして、それぞれが持っている情報の交換だとか意見交換、それから今後の対応等について協議をしたというような経過がございます。

それぞれ自治体で報道機関からコメントを求められたりしているようなこともありますけれども、今の段階で固まっているわけではありませんけれども、1点は、やはり昨年2市2町で協議した結果、おおよそ400万円から500万円の間の出資をしたという経過がございますから、その経過から言えば、撤退ということになれば、そのときの北海道からあった説明とは違ってくるということでは一致していまして、いずれにしても、大きくくれば、なかなか北海道から方向が示されていない中では、どうするこうするということを統一した見解として申し上げるのはまだちょっと早いかないようなイメージでありまして、北海道はこの後、6月6日に道議会の特別委員会があって、そこでどういった方向を出すのか、それとも経過の説明だけで済むのか、その辺のところを含め注視しているような状況です。

近いうちに、副市長、副町長レベルのところ

で、もう1回協議をしようということになっています。

○平賀委員

わかりました。原則的な立場というのは、HACに出資する当初と、今も各市町、網走市を含めて変わっていないのだということは理解させていただきました。

この後、道がどういう見解を示すかによって、対応を含めて、改めて検討されると思うのですが、公共性の問題と採算性の問題をどうクリアしていくかだと思いますので、その辺、できるだけ多くの意見を聞きながら、積極的な対応を市として考えていただきたいというふうに思います。

○佐々木委員長

そのほかございますか。

(「なし」の声あり)

○佐々木委員長

では、この説明については終わらせていただきます。

次に、東日本大震災関連観光振興特別対策事業の結果についての報告をお願いいたします。

○田口観光課長

続きまして、東日本大震災関連観光振興特別対策事業の結果について御説明をさせていただきます。

資料3をごらんください。

本件は、昨年3月に発生した東日本大震災や、それに伴う風評被害により観光客の縮減が予想されたことから、5月に臨時議会を開催し予算化したものですが、宿泊者クーポン券発行事業補助金、施設巡り観光バス増強対策事業補助金、社交飲食業利用促進事業補助金、そして道内修学旅行誘致対策事業補助金の4本の事業となっております。

まず最初に、宿泊者クーポン券発行事業補助金ですが、宿泊金額に応じて交付する宿泊クーポンと、公共交通機関を利用して来網し、宿泊するとクーポン券が上積みされる交通割り増しクーポンの2種類がございまして、チケットの発券総数は、市内ホテル、旅館、16施設で5万5,678枚の発行となっております。

また、配付されたクーポンチケットの利用実績は5万3,357枚、金額にして2,667万8,000円となっております。その内訳は、宿泊施設売店が

32%、飲食店が26%、スーパー、土産店が30%などとなっております。

このほかに、誘客宣伝費として、ポスター、リーフレットの作成費用として186万5,000円、運営等事務費として149万6,000円、合計3,003万9,000円の事業費となっており、市の補助金については、予算額1,828万5,000円に對しまして、1,747万2,000円となっております。

次に、施設巡り観光バス増強対策事業補助金ですが、本件は平成22年度から実施している施設巡り観光バス事業補助金の期間を一部延長したものであり、網走バス株式会社が新たに運休予定とした6月の12日間及び10月の3日間、合計15日間にかかわる運行について25万円の助成を行うもので、この間の利用実績は431名となっております。

次に、社交飲食業利用促進事業補助金についてですが、宿泊客が市内飲食店の利用促進を図るため、タクシー初乗り代金の一部助成及び市内飲食店の一層の活性化を図るため、カーヘルパー代金の一部助成を行いました。

この実績としては、タクシー初乗り料金助成については676台分、カーヘルパー代については563台分となっております。

最後に、道内修学旅行誘致対策事業補助金についてですが、修学旅行誘致に向けて体験メニュー冊子を作成しております。体験メニュー冊子につきましては、網走の歴史文化・自然、体験メニュー等が掲載されたA4版全10ページのガイド紙2,000部が作成され、その経費について80万円を助成したところでございます。

以上でございます。

○佐々木委員長

皆さんから質疑等ございますか。

○近藤委員

この中で、社交飲食業利用促進事業補助金の執行率が低いですが、この結果についてはどんなふうに分析されているのでしょうか。

○田口観光課長

これについては、タクシーについては、網走に宿泊したお客様を街中に誘客するという、そういう目的でつくったものと、あと、ホテルに泊まられている自家用車で来た方がヘルパーを使うということで、その助成をしたわけですが、いま一つ、PR不足の部分も若干あったりしまし

て、残念ながら執行率が少なくなったのと、あと、網走湖周辺のホテルに泊まったお客様が街に出る機会も少なかったということと、やっぱり全体の街に出るお客様の数も少なかったというのがあったというふうに考えております。

○近藤委員

また今後も、誘客を図る似たような施策を打たれる可能性もあると思うのですが、その際に、今回の到達点をきちっと生かしていただきたいということと、あと、全体像として、この事業そのものの評価を改めて確認したいのですが、特別対策事業全体についてなのですが、そもそも東日本大震災の影響があってお客さんが減ったと、それに対しての対応として何らかの手立てをとるところで補正予算を組んだ経過があるというふうに記憶しておりますが、現実的には、今回のこの入り込みの数は、前年を上回るということにはなっていないわけなのです。数字だけ見れば。

なので、この事業としては、結果的に成功だったのか失敗だったのかというくくりで見るときに、市としてはどのように評価をされているのかというのを改めて伺いたい。

○田口観光課長

この宿泊クーポン等を含めまして、宿泊クーポンにおきましては、利用実績数が、観光協会からの報告によりますと1万1,408人というふうに伺っておりまして、この数字は、昨年6月から12月の全宿泊数の約5%強という数字となっております。

また、一昨年と昨年を比較しますと、道内客の割合が非常に多くなっていて、道外客よりも道内客のほうが多いというような状況に昨年はなっていることから考えまして、この補助事業は道内客の誘客を受けて行ったことを考えますと、一定の効果はあったのではないかなというふうに考えております。

また、この発行クーポン券、宿泊クーポンの関係ですが、これにつきましては、金額にして2,667万8,000円の市内消費にもつながっているということから、その経済効果も少なくないとは考えております。

○佐々木委員長

そのほかございませんか。

○平賀委員

まず、社交業の利用促進事業についてですが、PR不足だったということで幾つか質問したいのですが、以前も同様の事業を行われていたことがたしかあったと思うのですが、市の事業ではなくて、たしか民間の事業で、そのときも、想定したよりもあまり効果が上がらなかったようなお話もあったのかなと思います。

同種の事業をまた市が実施するかどうかというのもあるのですが、例えば初乗りではなくて、もう少し上乗せにすればよかったのでは、初乗りよりももう少し上げたほうが効果があったのではないかと、そういう分析とかというのはなされていらないのでしょうか。

○田口観光課長

今回の補助事業につきましては、ホテルからの集客、ホテルから街中への誘客ということで行った部分でありまして、そういう意味で、連携とかPRが不足したというような状況というふうに考えておりまして、金額について、もう少し多くすればよかったとか、そのようなことについては今のところ検討していません。

○平賀委員

そこも観点の一つなのかなというふうに思いますので、検討していただきたいなというふうに思うのと、街の中に出てこないということですね、呼人方面から。それは恐らく、いわゆる泊食分離が進んでいないということなのだと思うのですが、その点については、今回の事業でまた一つ見えたことなのかなと思うのですが、そこはどのようにとらえて認識なさっていますか。

○田口観光課長

これは、そのホテルの考え方にもあるのですが、市内の活性化という面でいけば、泊食分離もいいかと思うのですが、ホテルとしましては、やっぱりそこで終結させたいという考え方もありまして、なかなか個々について、どっちがどうすれこうすれというのは難しい部分だと思うのですが、全体的な市内の発展ということも考慮しまして、ホテル、旅館とは今後とも継続的に検討していきたいというふうに考えております。

○平賀委員

その辺は、これからの課題の一つということで認識させていただきました。

もう一つ、宿泊クーポンについて、今、効果の

とらえ方については、御説明いただいたので大体わかったのですけれども、今後、もしこういった同種の事業をさらに何らかの形で行おうとするときに、考えとして参考になったものというか、市のほうではどういうふうにする点では評価をされているのか、もう一度改めて聞きたいのですけれども。

○田口観光課長

少なからず、この補助事業については、効果はあったとは思いますが、いつでもかつでも市の補助金を入れてやっていくのはどうかというふうにも考えていますので、その状況、その状況に応じて、慎重に検討していきたいというふうに考えております。

○平賀委員

わかりました。一番最初にこの事業の提案があったときに、具体的なプランが、ホテル側あるいは観光協会のほうから提示されない状況の中で、この事業が走り出すということがありました。その点も踏まえて、効果がどうだったのかということも改めて検証していただきたいと思うのと、今お話あったとおり、適時、必要なときに行政としてこういった事業をやらなければならないような経済状況もあるかもしれませんし、そうでないかもしれないので、それに備える意味でも、再検討も改めてしながら、この事業についてはさらに、決算委員会がまた9月にありますので、そのときに向けて精査をしていただいて、また改めて決算委員会のほうで質疑をしていきたいというふうに思います。よろしくお願ひします。

○佐々木委員長

そのほか、よろしいでしょうか。
(「なし」の声あり)

○佐々木委員長

では、この件につきましては終了させていただきます。

理事者側のほうで、そのほか何かございますでしょうか。

○大澤副市長

呼人浦キャンプ場の芝生の関係につきまして、私のほうから経過等の説明と、市としての見解を述べさせていただきますというふうに思います。

具体的な箇所についてでありますけれども、呼人浦キャンプ場のさわやかトイレあたりから太鼓橋付近まで、約6,000平米のエリア内に、建設作

業重機等の走行によると思われるタイヤ痕が数多く見られまして、また、芝生の一部には著しい損傷が確認されました。皆様も新聞等で御承知のとおりかと思ひます。市といたしましては、発見直後に自然公園法など、関係する行政機関に対しまして状況報告を行い、あわせて原因調査をしたところであります。

現場での詳細なタイヤ痕等確認作業、それから関係者への聞き取り、それから、道路関係者と言ひましようか、そういった方たちからの意見聴取等も行つたところであります。

これらを踏まえまして、走行した車両はタイヤショベル及びキャタピラ、バックホー、通称コンボですけれども、そういった車両によるものと推測をしたところであります。

国道からのタイヤ痕の有無や走行状況等から判断して、意図的ないたずらとは考えにくいという見解に立つたところであります。

当該地は、冬期間はイベント会場としても例年使用しておりましたので、イベント時での重機等の走行実態の把握、それから、イベント関係者からの事情聴取等も行つたわけではありますが、例年における当該敷地の凍結状況等から言ひまして、否定的な見解を示されました。したがって、イベント作業が原因だということの特定もなかなかできなかったというところがございます。

いずれにいたしましても、係る事態を招いたということは、市として管理が不十分であったということになるわけでありまして、市民や関係の皆様には大変御心配と御迷惑をおかけしたと、深くお詫びを申し上げたいというふうに思ひます。

キャンプ場の復旧につきましては、地盤の乾きを待って、5月11日から18日まで、不陸整地及び張り芝等の工事を実施いたしまして、5月28日からオープンをしたところでありますけれども、今後、このような事態を招かないよう十分配慮してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

○佐々木委員長

副市長からのお話でしたけれども、何かその点に関して、皆さんからお話等ございませんでしょうか。

(「なし」の声あり)

○佐々木委員長

報告ということでよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○佐々木委員長

委員のほうから何か、そのほかでございませうか。

(「なし」の声あり)

○佐々木委員長

ここで一たん休憩をいたします。

午前 10 時 22 分 休憩

午前 10 時 43 分 再開

○佐々木委員長

委員会を再開いたします。

4 項目めの行政視察の取りまとめについて。

今年度の行政視察の取りまとめ方法については、4 月 18 日開催の本委員会におきまして、各委員がレポートで報告し、委員会で意見交換を行い取りまとめることに決定しておりますので、皆さんからレポートはいただいておりますけれども、そのほかに、また最後に意見等ございましたら、ここで意見交換を行いたいと思っておりますので、それぞれ発言をお願いいたします。

○近藤委員

詳細については、レポートをまとめさせていただいておりますので、その中で触れています。

今回 3 市ということで、高松、唐津、武雄で勉強したわけなのですけれども、まず高松では、民間主導の観光振興というのをテーマに、いろいろと市役所の担当者と意見交換をさせていただいたので、突き詰めればメンタリティのところなのかなというふうに思っていて、高松で民間がいろいろと動き出して、フリープロモーション事業なんかを仕掛けたりはしている背景もあるのですけれども、やっぱり地元を思う心といえますか、地域を大事にしたい、盛り上げたいという気持ちを市民が共有しているということが一つのみそなのかなというふうに感じました。

その気持ちを共有できているのはなぜなのかなというのをいろいろ突き詰めて聞いていくと、やはり瀬戸大橋の開業効果も薄れて、なかなか観光客が入ってこない、さらに出先機関はやめてしまっているというのに対して、危機感を地域は持っているということを強く実感しました。

翻って網走市を見たときに、観光の入り込みの状況というのは、きょうも少し報告ありましたけれども、きわめて危機的な状況にもかかわらず、

その危機的な状況を危機としてとらえているのかという一抹の不安を抱えておまして、そこは議会も含めて、網走における観光というのはどういう役割を果たし、どういう存在なのかというのを市民の皆さんともう一度考え直して、農業、漁業と並ぶ一つの重要な産業の柱であるという思いと、それから、今網走の観光は非常に厳しい状況だけれども、今何とかしなければ本当にどうしようもならないところに行ってしまうという危機感を共有する必要があるのだと改めて感じた次第であります。

続きまして、唐津なのですけれども、ここではゆるキャラと木質チップを使ったボイラーの利活用事業というものを勉強させていただきました。

ゆるキャラに関しては、多分、つくったときは結構軽い気持ちでつくったのだろうというのは、お話を聞きながらも思ったのですけれども、結果的には非常に大きな経済効果を生んでいると。その背景に何があるのかなというのをいろいろ聞いてみると、やはり食欲に活用しているということです。つくりっ放しにしないという意識が役所の中にきちんとあって、ここまで来ているというのを学ぶことができました。

今、網走市でもゆるキャラをつくらうということで予算が組まれていますけれども、つくってどうするかというビジョンについては、ほとんど白紙なのだろうというふうに受け取っています。

ですので、ここは議会からも、ゆるキャラをつくる上ではこういう使い方が必要ではないですかという提案と、また、そういうことを市民の皆さんと考えていく機会をつくるという、先ほど観光をどうするのだという意見交換を含めての話もあるのですけれども、ゆるキャラはつくって終わりではなくて、つくってから勝負だということがよくわかりました。

では、木質ボイラーの導入事業については、全国、御多分に漏れず、なかなか安定供給が難しいとか、耐用年数を過ぎたらまた使えるのかどうかとか、いろいろとまだ課題が多い中で、実験的にチャレンジしているという意欲はすごいなというふうに感じたのですけれども、一部、補助金ありきという要素もあって、うまくいくのかなという疑問を感じたところもあります。

最後に武雄市なのですけれども、武雄市については私も提案させていただいて、ぜひ見に行きた

いということで見に行かせていただきました。

テーマとしては、フェイスブックを活用して地元の産品を売っていくという仕組みを見たいということだったのですけれども、フェイスブックという一つのツールを通じて、職員と市民、または市の職員と市の職員、それから市長と市民とか、いろいろな人たちがつながっていているというのを非常に実感をしました。

ですので、フェイスブックを使うということが目的ではなくて、フェイスブックを使った先に、地域が盛り上がっている、地域の皆さんがそれぞれ個性を発揮して動いていくという一つの地域社会のあり方が武雄で見て取れたのは非常に大きな収穫だったのかなと思います。

それとあと、これは皆さん報告書にも書かれていますけれども、市の職員さんたちが非常に熱心に仕事をされていると。ほとんど、まじめにふざけているという話もありましたけれども、前向きなお話がたくさんありました。民間企業のような印象も受けたのですが、やはりそこは先ほどのお話とつながるということですね。

それぞれの職員さんたちがそれぞれの意欲を持って仕事に臨んでおられるということと、あと、やはり新しいことを率先してやっていると、市長がそういうキャラクターであるという見方もありますけれども、職員さんたちもそういう意識を持って、チャレンジを続けていることがモチベーションの高さを維持しているのかなというふうに思いましたし、あと、視察が終わった後に申込書が配られて、せっかく来たので武雄の商品を買って行ってくださいというようなプレゼンテーションまでであるというのは、これは網走も見習って、網走の産品をもっと積極的に売っていくような仕掛けが必要だなというふうに感じました。

以上であります。

○佐々木委員長

順番に、じゃあ、どうぞお一人ずつ発言してください。

○山田委員

言ったとおり、これに書いてあるのですが、香川県の高松へ行ったときに、網走と比較をやはりするのですよね。私も着いた瞬間に商店街を見に行っただけけれども、やはり網走と違って、規模の違いはあるのですが、空き店舗が少ないと。それはやはり、市と民間の人が空き

店舗を埋めるのにどうしようかという取り組みがあること。

その中では、地代を安くするというか、60年の借地権をつけて、安く貸してお店を出しやすくするというようなやり方をしていました。これは、一つは網走でも参考にはなると思うのですが、ここの街の歴史と網走の街との歴史を考えると、難しいところは、やはり観光資源が、こちらは歴史がないので、少ないので、残念ながら同じ比較にはならないのだけれども、手法としては、60年の借地権、これは、やり方としてはあるのではないかというような感じがいたしました。

それから、次に行きました唐津の唐ワンくんですね。やはり非常に興味があることで、商工会議所の青年部がこれからやろうとする中で、見てきたこと、聞いてきたこと、できれば彼らとコミュニケーションを持って、こういうことがあったという交流会があって、情報を発信できるというかなど。

参考にしていただいて、これからやろうとするものの取り組みを、サポートもできればいいけれども、そこまでできないとは思いますが、それで、参考となるものを入れるというふうに思います。

木質ボイラーについては、この間言われたとおり、それはそれでいいと。

次に武雄市なのですけれども、フェイスブックの活用というのが徹底されているというところで、すごいとは思ったのですが、フェイスブックがアメリカでは6割の普及で、日本では20%というふうに言われているのですが、使い方がよくわからないので、この辺がいいかどうかわからないというふうに思いますが、情報を発信するには物すごい力があるというふうには思いました。

あとは、やる気がすごいなど。九州の人の特性かどうかわかりませんが、明るく前向きにやっという姿勢があるのと、それからもう一つは、私、最後のほうに書いていますけれども、必ず国際課があって、そこでアジアとの貿易なり、あるいは交流をしようという姿勢が非常に強いです。ということは、北海道ではあまり国際課があるような自治体というのはないのですが、常に、日本だけではなくて世界に目を

向けているという姿勢があります。

これは、これからの商売、日本人だけ相手にしてはだめだというような姿勢がうかがえる。今、先ほど観光、台湾の入り込みがすごいというふうに言っていましたけれども、台湾だけではなく、中国、韓国、東アジアというところが大きな市場であることから、それらに対応できるようなシステムづくりが網走のほうでできればいいというふうに思っています。

感想として、そういうような全体的感想です。

○七夕委員

今、意見、それぞれあったのですけれども、私のほうでは、唐津のマスコットキャラクターとフェイスブック、あとは中身を見ていただければいいと思うのですけれども、唐ワンくんだったので、ゆるキャラを制作するに当たって、あまり安易に考えないほうがいいということがよくわかりました。

なぜかという、制作するに当たって、悪いイメージが先行して今回の唐ワンくんが人気を伸ばしたという話を聞いたときに、制作段階である程度、網走らしさだとか、そういうものをしっかりと考えていかないと、その次に何が起こるかわからないということがありますので、そこをちょっと真剣に考えていかないとまずいのかなと思いました。

あともう一つ、フェイスブックなのですけれども、フェイスブックは、私、やっていなかったのですけれども、あの武雄市の説明を聞いて、ちょっとチャレンジしてみようかと思えるほどの話だったものですから、なかなかいいなど。

まず、市の職員が全員フェイスブックのアドレスというかな、アカウントを取ってみんなやっている。それを、時間を短縮して市民たちに情報を素早く発信しているということが、すごいメリットがあるのかなと。

その次のF&B良品は、あそこはちょっとやり過ぎかなというイメージがあったのですけれども、うちの街でもフェイスブックを導入して少しはやっているのですけれども、まずは更新率をどんどん上げていくことが重要なポイントなのだというのが、まず目先のポイントとして思ったので、まずはそのほうを集中してやっていくことが先決かなと思いました。

○平賀委員

高松市のほうは、民間主導ということで、観光の振興についてということで行ったのですけれども、地元も徐々にその意識が高まっているのだなというふうに思いましたが、当初の印象と比べると、外の資源を活用しようという意識がすごい強いのだなということが改めて再認識できました。

振り返って網走を見てみると、同様の事業を網走でも恐らく実施できるだろうというふうに思いますし、網走が好きなのだけれども、あるいは網走出身なのだけれども、何らかの事情で網走到に住んでいないという人たちがいろいろな組織に所属されているので、そういった方々のつながりも含めて、こういった事業は積極的にやっていったらいいのだろうなど。せっかく観光部ができたので、改めて、こういう事業を網走でも取り組むようになるかなというふうに思いました。

それから、唐津市は、木質ボイラーについては皆さんと同様で、マスコットキャラクターも、どうやってその後使うかということについて示唆をいただいたというふうに思います。

商工会議所青年部の事業として、私はもう担当委員会の所属ではないので、直接は違うのですけれども、自分もメンバーの一人なので、情報としてはしっかり伝えていかなければならないなと思いましたし、使い方を含めて、どうするかというのもあわせて今後やっていくということも、一つ考えたほうがおもしろいのかなというふうには思ったので、そこも含めて、大きな示唆をいただいたなというふうに思いました。

それから、武雄市ですね。やっぱり先輩にも、もう既に議員をやられていない方にちょっと聞いてみたのですけれども、プレゼンテーションした、行政から説明を受けた後、みんなで拍手をするようなものというのはまずないのだと、そう思いました。自然と出てしまうぐらいすばらしいプレゼンテーション、行政視察だったのだろうというふうに思います。そんなことは先輩議員としてもなかったというふうにおっしゃっていたので、そういうことは職員の姿勢として、まず大事なことになるだろうなど。そのぐらい印象に残していこうという、まずそういう気持ちも大事なのだなというふうに思います。

あとは、ツールとしてのフェイスブックに本来は過ぎないのですけれども、そのツールをしっかり使うことで職員の意識も変化していくのだなと

いうのも一方で見えたのかなと。

もちろん市長の取り組み姿勢、徹底的に現場に権限を下ろして行って、何かあったときの責任をきちんととるのだということ、それから、現場に市長自身が足を運んで信頼関係を築いたり状況の把握に努めたりするとかという細かいリーダーシップを含めた取り組みがあってこそなのでしょうけれども、そういった側面もあるのだなということも改めて学べたなというふうに思っています。

やっぱりページビューの数が物すごく多くなっていて、そこがさまざまな事業展開につながっていく可能性を生み出しているのだなというふうにも思いました。

以前から何人かの議員が、網走市のホームページにも広告を載せたりとかという話をされていたり、フェイスブックについての質問がいろいろ出たり、網走市での取り組みはしているのですけれども、意識としては、まだまだ十分ではないのだなということも改めて認識しましたので、網走として、それではどう取り組むかということをもう一度、今回の視察を考えていかなければならないなというふうに思いました。

以上です。

○栗田副委員長

皆さんからの御意見、種々いただいています。私のほうからも、高松市なのですが、大きな都市でありますし、非常に行く前は期待して行った部分がありますが、現実的に民間主導という部分については、期待ほどではなかったなということを感じましたが、ほかの2次的なものとして、商店街の復興というか再生の部分では、大都市がゆえにああいうやり方が可能であると。当市において、そのまま持ってきたときに、これはまず不可能であると。なぜならば、そういうマーケットの市場の層が違ふと。

やっぱりいろんな四国の玄関口として栄えた歴史、その他で、やっぱり富裕層が多いというふうにも感じました。それが高松の状況であります。

もう一つ、私がかねてから、当市が、いわゆる最大級の乾燥施設、小麦粉の生産基地であるにもかかわらず、うどんの文化を何とかできないのかということも考えていたのですが、そういうこともあり、皆さんにお願いをしながら、昼食等を絡

めて讃岐うどんの関係も見せていただきましたけれども、やはり文化なのでしょう、生活に向こうの方は非常に密着しているのですけれども、我々北海道人があの文化をそのまま受け入れられるのかなと考えたときに、まだちょっとその域にはないのかなという気がしました。

もう1点、行かないとわからないことなのですが、うどんが1杯150円だとか100円で食べられるみたいな報道が盛んにされていたのですが、それについても、現実的には、皆さん食べているのを見ると、いろんなオプションをつけて、おにぎりだ、おいなりさんだをつけて、500円から700円ぐらいは支払いをしているなど、立派なランチ価格になっていたということも認識した次第です。

我々も3軒歩いたのですが、結構お金がかかりました。高いランチになりましたけれども、それなりに成果はあったということでございます。

唐津市にまいるしたいと思います。キャラクターについては、私、全く賛成しないほうの人間なので、何かちょっとふざけているような意識が、どうしても僕自身が入ってしまうので、役所がやることではないだろうというふうな認識を昔から持っているのです。

確かにいろんなことがあって、それも一つの街のPRという部分ではいいのでしょうけれども、もっと違ったやり方ができないのかなという気がして見させていただきましたが、それなりに一生懸命やっていたらっしゃったのと、担当者の熱意も感じていたというところでもあります。

木質ボイラー、これも、たまたま唐津市がこの事業をやっているということが目に入ったので、ぜひともお話を聞きたいということで入れたのですけれども、案の定、やっぱり木をたくということは、化石燃料、灯油をたくとは全然種類が違ふということです。それを認識しないと、最終的にあれだけの設備投資をして、国が補助金と言いなながらも、税金に変わりはないわけですから、それは国から出るお金であろうが市単独で出すお金であろうが、税金を使うという意味の中で、あれが本当にいい事業なのかといたら、全くナンセンスなのです。

ぜひとも、今後ああいうものに関しては、CO₂削減の効果云々というの、国の言い方もちょっと問題が僕はあると思うのです。森林をあれすることでCO₂を出していないような錯覚に陥って

しまうのですけれども、木を燃やすということはCO₂を確実に出していますし、むしろ灯油なんかよりもいろんな危険な成分を出しているという現実もあります。完全燃焼できない部分も多々あります。

これは研究しているんなことをしていても、コスト的なものからいろんなことを考えると、普及はかなり難しいと。

現実には、当市におけるペレットストーブについても、今普及はとまっています。これは今の段階では無理だと、これははっきり感じる話なので。現実には、そういう反対された議員、我々にもいましたけれども、もっと真剣に考えてもらって、安直に飛びつかないようにしていただきたいということを感じるためにわざと入れたようなわけですけれども、そのようなことでこの話を聞いてきました。

もう一つ大事なことは、現場でも聞いたのですけれども、赤字に転化したときに大変だなどという心配をすごくしました。ああいう温浴施設は、本当に古くなってくると、集客というのは極端に落ちるとというのが現実ですから。

それで、武雄市なのですが、私もフェイスブックというのは全然認識はなくて、いろんな方々がされているということで、この事業。やはり、これは行っただけの、本当に価値のある視察だったなという感じです。

議会も一生懸命いろんなことに取り組んで、我々のプレゼンを受けたモニター、シャープか何かの大きいモニター、60インチとかそんな。それは議会が、要するにプレゼンというか、一般質問するときにも使うのだと、そのために導入したものを利用していたということだったので、もうここまで進んでいるのだと本当に強く感じて、全員が使うわけではないと思うのですけれども、ああいうものがやっぱり必要な時代になったのかと。

テロップだとかいろんなものをつくるというのに費用がかかりますから、モニターがあれば、それは1回買ってしまえば、ただデータを入れるだけででき上がるというので、非常に有効かなと。当市においても、いち早く欲しいなと、個人的にはそういうふうに思いました。

あと、レポートにも書いていますが、要は、魅力的な施策、もちろん市長のリーダーシップもあったのでしようけれども、あることによって、

とにかく多くの視察が絶え間なく入ってくる。それで、ちょっと傲慢とも言える、宿泊しないと受け入れませんよみたいな形でありながらも、あえて皆さんが行くということで、非常に魅力的なことをきちっとやっている。そういうことに発信というか、もちろんフェイスブックの影響もあるのでしようけれども、それだけでなく、みんな注目するのだなということを感じました。

相対的に、武雄市の市長がいろんなことに物議を醸している市長でありますし、もともとは中央官僚の出身ということで、いろいろ注目されている方なのですが、要は、市役所のリーダーがどういう方向で物を考えて売って、組織がどれだけ変わるかということを実際に肌で感じるような市役所の体制ではなかったのかなという気がします。

そういう意味からすると、網走市、当市においては、若干そういうリーダーシップの色が弱のかなと。もっと網走がどっちの方向に進んでいくのかなというのを見せてほしいなというのを個人的に感じた次第です。

以上です。

○佐々木委員長

ありがとうございました。

それぞれ皆さん、本当に、非常にレポートも内容の濃いもので、私自身もいろいろと皆さんの感想を聞きながら、やはりそれぞれ視点が違うところで勉強になってきたのかなというふうに受けとめられます。

そして、さっき山田委員からもありましたように、マスコットキャラクターについては、せっかくの私たちの研さんしてきたものですから、ことし青年会議所のメンバーがやろうとしている皆さんとの意見交換などもできることを考えたらいいのかなというふうに私も思っているところです。

それと、それぞれ行かなければわからないことばかりという、本当に視察というのは、百聞は一見にしかずと前にも話ししましたが、行って本当に得るものが多いなど。

項目的には、本当に今回、3市4項目ということで、そんなにたくさん項目ではなかったのですが、非常に、例えば高松の讃岐うどんにしましても、無理して皆さんと3カ所ほど行ってきました。そんな中で、これがどうしてこんなに根づいたのかという話を聞いたときに、タウン誌の編集長が紹介したことが一つの大きなきっかけになっ

ているということも伺いまして、やはり、何か浸透するにはそういう媒体も必要なのかなということも感じたりとか、あと、最後にやっぱり印象が強かったのは武雄市で、本当にプレゼンテーションもすばらしかったですし、それぞれの職員さんたちの意気込みというものが、本当に自主的に行動しているということも感じましたし、見習うべきところが多々あったかなと。本当に今回は、今までにも増して充実した内容の視察ができたかなと。

これをぜひ、これからの経済建設委員会の委員として市政に反映していけるような質問等に十分生かしながら、この視察を反映させていけるようにしていきたいと考えております。

あとは、皆さんの意見を取りまとめた上で議長への報告にしたいと思います。

それでは、そのほか、委員から委員会として何か案件ございますか。

（「なし」の声あり）

○佐々木委員長

それでは、以上で経済建設委員会を終了いたします。

午前 11 時 09 分 閉会